昭和中だより
ハートフル昭和
http://www.city.akishima.ed.jp/~showa/

令和７年１月 31 日
第 11 号
昭島市立昭和中学校
校 長　　渡部　尚

奇跡のリンゴに学ぶ「たくましさ」と「強さ」

皆さんは、「奇跡のリンゴ」を知っているでしょうか。これは、青森県のリンゴ農家である木村秋則さんによって作られた無農薬栽培のリンゴのことです。リンゴはもともと、品種改良を繰り返してできた果物で、その果実の甘さと引き換えに「農薬を使わなければ現在の品質には絶対にならない」が定説となっていました。しかし木村さんは、苦難を超えてリンゴの無農薬栽培を成功させ、世界中を驚かせたのです。

木村さんが無農薬栽培に取り組もうと決心したのは、それまでのリンゴ栽培の過程で、本人や奥さんが農薬の被害に苦しんでいたためです。（※食べるリンゴは国の残留農薬基準を満たしていますが、栽培の過程での健康被害が農家の方にありました。）

一度決めたらやり抜く性格の木村さんは、農薬に頼らない栽培への挑戦を始めたものの、病害虫との戦い、周囲の農家との軋轢（あつれき）、経済的な困窮などの困難に耐えながら、枯れては植えてを 10 年近く繰り返しました。その間、収穫はゼロのため収入はなく、冬場は東京に日雇いの出稼ぎにも出ていました。途中、あまりの過酷さに心が折れそうになり、死のうと思ったこともあったそうです。

そんな困難を超え、11 年目に無農薬のリンゴがようやく花を咲かせ、初めての収穫がありました。成功のカギとなったのは、リンゴをたくましく育てる、ということです。農薬や化学肥料によって害虫や雑草から守られ続けてきたリンゴの木は、「か弱い」植物になっていました。木村さんは失敗を繰り返しながらリンゴの木が持つ生命力を高めて外敵と戦っていける力を少しずつ、少しずつつけていくことで成し遂げたのです。

この奇跡のリンゴで感じたことは、人も植物も、「たくましさ」と「強さ」が不可欠ということです。皆さんはどうでしょうか。当然、苦しい時には人に頼り、周りからのサポートを受けることは絶対に必要です。しかし、どれだけ自分で困難に立ち向かっているでしょうか。もし、楽なほうや甘いほうにばかり流され、我慢すべきことに耐えられなかったり、簡単にあきらめてしまったり、わがままを言うのが当たり前になっていたりするならば、社会で生き抜くたくましさや強さは身に付きません。周りのサポートを受けながらも、自分で対処していく幅を少しずつ広げていくことが、自立につながっていきます。

今回は、木村さんからも、リンゴからも学ぶことができたエピソードでした。この「奇跡のリンゴ」は映画化もされていますので、興味のある方はぜひご覧ください。

２月　行事予定

日	曜	学校行事	日	曜	学校行事
1	土		17	月	生徒会朝礼
2	日	移動教室（１年）始	18	火	避難訓練　Esat-J（１・２年）
3	月		19	水	職員会議
4	火	移動教室（１年）終	20	木	専門委員会
5	水	移動教室振替休業日（１年）	21	金	都立一次学力検査　お弁当の日
6	木		22	土	
7	金		23	日	天皇誕生日
8	土		24	月	振替休日
9	日		25	火	学年末テスト　１日目
10	月	朝礼　安全指導	26	水	〃　　２日目
11	火	建国記念の日	27	木	〃　　３日目
12	水		28	金	中央委員会
13	木	小中連携（東小・富士見丘小）			
14	金	救急救命講習会（２年）			
15	土				
16	日				

● がんばれ、３年生！

３年生の受験が本格化しています。勉強に、面接の準備にとても頑張っています。

本校の３年生の素晴らしいところは、「周りを考えて行動できる」ところです。今の時期は、すでに受験を終えて合格を手にした人、不合格になってしまった人、一般受験に向けて頑張っている人などが混ざり、ほっとした人、不安な気持ちを抱えている人など心の状態も様々です。

そんな中、３年生は落ち着いて、自分の感情に左右されずに周りの人を意識しながら生活してくれています。これは３年生の皆さんが持つ優しさや、これまで培ってきたチームワークがあってこそだと思います。

受験は個人戦のようで団体戦です。最後まで今の気持ちを大切に頑張ってください。